

6月議会一般質問

R3.6.18

1. 「福岡市主催の胃がん検診事業におけるバリウム誤えん事故について」
2. 「コミュニティパーク事業の見直しについて」
3. 「本市の農業振興について」

1. 「福岡市主催の胃がん検診事業におけるバリウム誤えん事故について」

6年前、胃がん検診で起きたバリウム誤嚥事故について、今になっても福岡市は事故原因や再発防止について家族や市民の納得いくような説明を行っていない。

福岡市は主催者として責任を持って早急に原因究明に努め、市民が安心して健康診断を受診できるような事故防止に向けたシステムを確立すべきだ。

バリウム誤嚥事故の論点

1. なぜ、救急車を呼ばなかったのか
2. なぜ、大量のバリウムが肺に流入（誤嚥？）したのか
3. 事業団（受託者）が作成した事故の経緯報告書等、書類の信ぴょう性に疑問あり
4. 福岡市（主催者）・すこやか健康事業団（受託者）の責務

2. 「コミュニティパーク事業の見直しについて」

身近な公園を対象にした「コミュニティパーク事業」は、地域コミュニティの活性化に大いに寄与するものと期待し
3年前から事業実施が行われたが、ハードルが高く 全市でまだ3か所でしか実施されていない。

問題点

- 1つ目には、地域活動の担い手不足という地域の実情。
- 2つ目には、パーク事業の運営委員会に関わる地域の方の負担と責任が大きい。

改善要望

- 運営委員会の責任を軽減するために公園利用上の注意・指導を義務付けるのではなく、今まで同様、公園利用上の注意や地域ルールを掲示し、周知する。
- パーク事業の公園施設内における、地域集会所（パークハウス）の設置要綱の緩和を行う。

3.「本市の農業振興について」

我が国には食物があふれているように感じるが、そのほとんどは輸入に頼っている。食料自給率は僅か38%程ではない。人口増に加え、気候変動などで世界的規模の凶作がおこれば食料事情はひっ迫し現在のコロナ禍以上の混乱が予想される。市民の皆さまに農業環境の厳しさを認識していただき農業に対する関心を持っていただきたい。

- ・ 農家戸数は10年前の半分に減少した。なかでも減少が著しいのは[第二種兼業農家]。
- ・ 農家戸数の減少を食い止め、農地をこれ以上減らさないことが重要と考える。
- ・ 農家戸数の減少の食い止めには農家の所得向上に繋がる施策が最も重要。
- ・ 農業と福祉との連携は本市としても積極的に取り組むべきだ。

現在審議中の来年度から5年間の農業対策方針を決める「福岡市農林業総合計画」は、現在の農業の諸問題を解決し危機を打破し 農家だけではなく市民のみなさんにも夢と希望が持て 新たな時代に対応できる農業施策となることを切望する。